

設備工事情報シート	衛 生	Ⅱ－P－36	制 定	2008年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	排水管の耐火遮音カバー		因幡電機産業編	

1. 目的・概要

防火区画を貫通する排水管は、国土交通大臣認定を取得した工法で処理する必要がある。
塩ビ管に被せただけで防火区画貫通できると同時に遮音性能も得られる耐火遮音カバーがある。
以下に因幡電機産業㈱の施工要領および施工のポイントを示す。
国土交通大臣認定番号：PS060FL-0432（床）、PS060WL-0434（壁）、PS060WL-0608（中空壁）

2. 施工要領

(1) 直管部の加工

①塩ビ管を規定の寸法に切断し、挿入シロの確認の標線を記入する。ただし、継手の45° Y及び異径45° Yに接続する場合は、継手の流入側遮音カバーが20mm長くなっているの、挿入シロ+20mmに標線を記入する。

②切断した塩ビ管の長さ寸法から継手の挿入シロ（2ヶ所分）を引いた寸法に直管用遮音材を切断する。

ただし、継手の45° Yおよび異径45° Yについて、流入側遮音カバーは20mm長くなっているの、挿入シロ+20mmで切断する。

⇒継手の挿入シロ（2ヶ所分） φ40A：44mm、φ50A：50mm、φ65A：70mm、φ75A：80mm、
φ100A：100mm、φ125A：130mm、φ150A：160mm（中空壁の場合はφ100以下）

注意：

塩ビ管切断部のバリや付着物をよく取除くこと。バリなどがあると接続時に、継手ソケット部の奥まで挿入されず、漏水の原因となるので注意すること。

③直管用遮音材を手で円筒形にならし、塩ビ管を差し込む。

また、直管が1m以上あるときは、直管用遮音材を繋ぎあわせて、繋ぎ目に同梱のジョイントテープを巻きつけてよくなじませる。

(2) 配管接続

塩ビ管外面の継手挿入シロ及び継手部材のソケット部に塩ビ管用接着材を塗布し、塩ビ管に予め記入した標線まで継手に挿入する。

注意：

直管部の遮音材だけを移動させて挿入すると塩ビ管が十分に継手ソケット部の奥まで挿入されない場合があります、漏水の原因となるので注意すること。

(3) 接続部処理

直管部材と継手部材の接続部は、遮音材の上からジョイントテープを巻きつけよくなじませる。

資 料

注意：

ジョイントテープは、配管を一周以上巻き、必ずオーバーラップさせること。接続部に隙間があると音漏れの原因となるので注意すること。また、付属のジョイントテープは幅や長さをカットしないこと。

ジョイントテープを巻きつける際は、遮音材やテープ自体の汚れやホコリをよく取り除いてから巻きつけること。

(4) 配管支持

配管は同じ呼び径の耐火二層管用の支持金具でしっかりと支持固定する。

(5) 確認

遮音材の隙間がないこと、ジョイントテープの剥れがないことを確認して完成。

3. 中空壁の場合の施工要領

(1) 配管の設置

貫通開口部に配管を設置する。配管を支持する場合は、中空壁に荷重がかからないように、壁より300mm以内の位置で床または天井に支持・固定する。

注意：

給・排水管の固定は、火災時の過大な荷重による壁の損傷などがないように行うこと。

(2) 隙間の充てん

配管と貫通穴の表裏2ヶ所の隙間にシリコン系シーリング材を壁の厚さ方向にそれぞれ25mm以上密に充てんする。

注意：

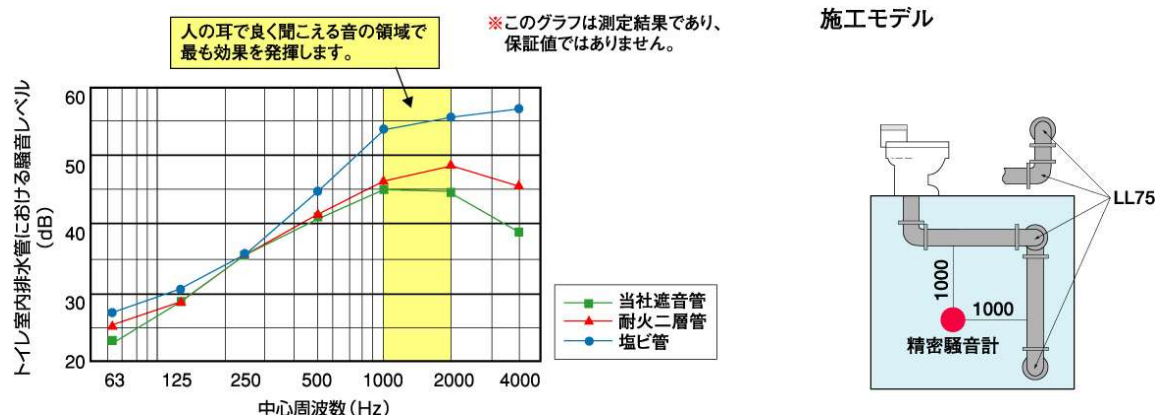
充てん高さがボード厚さ以上となるよう予め計算したシーリング材の必要容積以上の量を充てんし、壁まで盛り上げ、充てん厚さを確保すること。

(3) 確認

開口部および埋戻し部に隙間がないことを確認して完成。

4. 遮音性能

裸排水管（VU）・耐火二層管及び遮音配管の遮音性能を右記の施工モデルに基づき比較した結果を示す。



5. 問い合わせ先

因幡電機産業（株） 因幡電工事業部

札幌営業所	(011) 209-1784	近畿 1 課	(06) 4391-1940
仙台営業所	(022) 293-1785	近畿 2 課	(06) 4391-1732
関東営業所	(048) 642-1783	広島営業所	(082) 545-1132
首都圏 1 課	(03) 5783-1723	九州 1・2 課	(092) 525-1782
首都圏 2 課	(03) 5783-1724	推進1課（東京）	(03) 5783-1721
神奈川 1・2 課	(045) 470-1780	推進2課（大阪）	(06) 4391-1941
名古屋営業所	(052) 541-1780	推進3課（九州）	(092) 525-1782
金沢営業所	(076) 262-1783	推進4課（仙台）	(022) 293-1785